

平成26年度第1回府中市立図書館サービス検討協議会議事録

日 時 平成26年7月1日（火） 午前10時から正午
会 場 ルミエール府中5階会議室
主席者 栗田博之委員、茅原幸子委員、大石千鶴委員、北谷豪委員、
小島茂委員、高橋博子委員、野見山敏雄委員、渡辺信子委員
事務局 後藤文化スポーツ部長、坪井図書館長、田邊サービス係長、
佐藤地区図書館担当主査、菅沼、平野、伊藤（記録）

1 依頼式

2 文化スポーツ部長挨拶

後藤部長 みなさま本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。この度は、府中市立図書館サービス検討協議会の第2期の委員を快くお引き受けいただきありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。近年のインターネットなどの情報技術の発達に伴い、図書館の利用者からさまざまなご要望をいただき、また利用の目的も変化しております。これまでの考え方で図書館を運営してよいものか、これから検討していかなければならないと考えております。中央図書館は平成19年12月に市民会館との複合施設として開館しました。朝9時から夜10時までの開館時間、またICタグを使った予約コーナー、自動貸出機など、最新の技術を導入して運営してきました。一方で、いわゆるレファレンスやハンディキャップサービスといったサービスの充実に努めてまいりました。その結果、年間100万の方にご来館いただいております。しかし、今後市民のみなさまのご要望が多様化し、さらに専門性の高いご相談もあり、また視聴覚資料の減少といった状況もあり、さまざまな課題が浮かび上がってきております。中央図書館、10館の文化センターに入っている地区図書館、ふるさと府中歴史館に入っている宮町図書館、生涯学習センターに入っている学習センター図書館を一体として、委員のみなさまには今後どのように運営していけばよいかをご協議いただき、ご提示いただければ大変ありがたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いたします。最後に1点PRをさせていただきます。府中市は今年で市制施行60周年を迎えます。人間でいうと還暦にあたります。図書館は昭和36年に開館し、平成23年には50周年を迎え、記念誌も作成しました。今朝もその記念誌を読みましたが、図書館が地域にとっ

て大きな役割を与えていると改めて感じました。今後さまざまな課題に取り組む中で、みなさまにはぜひこれからもお力をお貸しいただけますと大変ありがたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日は60周年にあたり、9月から美術館で開催を予定しているミレー展の打合せのため、申し訳ありませんが途中退席とさせていただきます。

3 委員自己紹介

栗田委員 東京外国語大学の栗田と申します。専門は文化人類学で、フィールドはパプアニューギニアです。本協議会には第1期から参加していますが、当時大学で図書館長を務めており、その関係で有識者として参加させていただきました。第1期では活発な意見が交わされましたが、今期もこの会が活発な意見交換の場になればと思っています。

茅原委員 学校図書館のボランティアの代表として委員を務める茅原と申します。第二小学校で10年ほどボランティアをしています。読み聞かせや図書館整備など、普段は各学校が独自の取り組みをしています。年に一度小学校間の交流会を開いており、そこから代表として第1期から参加しています。子どもの読書が変化していると言われていますが、そういった観点からお役に立てることがあればと思っています。

高橋委員 高橋と申します。図書館のハンディキャップサービスのボランティアをしています。主に対面朗読、音訳をしています。ハンディキャップサービスは他にも宅配などのボランティアもおります。今回は私がそちらから参加することになりました。ハンディキャップサービスはこれからは需要が増えると考えられますので、頑張っていきたいと思っています。

大石委員 今期から初めてこの協議会に参加することになりました、大石と申します。市内の小中学校で学習支援員をしています。最近は子どもの心理に関する勉強もしており、本の世界やファンタジーなどが子どもにとっていかに大事なものであるかを痛感しています。また、母が高齢で字が読みにくくなったこともあり、そういった家庭生活の中でも図書館が高齢の方たちに十分に対応できているのかといった思いを日々抱えていました。その中で、図書館のサービスに関して討議する場を設けていることを知り、この協議会に参加しました。

- 渡辺委員 渡辺と申します。本好きで、図書館にはお世話になっています。図書館というシステムは、今はあって当たり前のようになっていますが、これほどまでにうまく社会に適応しているシステムはないのではないかと考えています。私は現状でも十分だというふうに思っていますが、こちらにいらっしゃる委員のみなさんはさらなる改善をされたいということで、頭が下がる思いでいます。拙い意見ではあるかもしれませんが、お役に立てるのであれば幸せだと思っています。
- 野見山委員 東京農工大学農学研究院の野見山と申します。専門は農産物流通論の教育と研究を担当しており、最近では産直や地産地消についての運動や研究を行っています。大学では府中地区の図書館長を拝命しています。府中キャンパスの図書館は現在耐震改修工事をしており、今年の12月頃にはグランドオープンする予定です。相互利用で市民にも開放しますのでぜひ一度おいでいただければと思います。
- 小島委員 府中第一小学校校長の小島と申します。私は第1期の途中から参加しました。市内22の小学校のなかから私が参加することとなったのは、府中市の教員の研究で図書館指導というものがあり、その担当の校長となったのが経緯です。第二小学校の校長を務めていた際、茅原委員にはお世話になっています。驚いたことに二小には当時130名の読み聞かせボランティアがいらして、毎週全学級で読み聞かせをしていただいていた。現在、一小でも月に一度読み聞かせをしています。それは10年前に私の前々任の校長が二小から一小に移った際に当時のPTAの役員の方にお願ひし、取り入れられました。私も一小の校長に赴任してからすぐに朝読書を取り入れ、子どもたちの読書環境を整えてきましたので、子どもの読書の重要さを感じています。本日は教員たちから中央図書館への要望をいくつか預かってきたので、後ほどお話したいと思います。
- 北谷委員 北谷と申します。むさし府中商工会議所から推薦を受け、第1期から参加しています。税理士をしています。青年会議所なども入っており、3・40代の若い方との交流も多いので、そういった視点から図書館サービスに関するお話ができればと思っています。図書館のシステムなどに関してはわからないこともあるかとは思いますが、違う目線からお話ができればよいというふうに考えています。

4 事務局紹介

5 会長・副会長選出

会長に栗田委員、副会長に茅原委員を選出

6 議題

会長 議題に沿って進めたい。議題1の、府中市立図書館サービス検討協議会の概要説明を事務局をお願いしたい。

事務局 本協議会の概要について簡単に説明させていただく。府中市立図書館は平成23年に50周年を迎えた。中央図書館、地区図書館合わせて13館あり、いずれも半径1キロ圏内と、徒歩圏内に位置しているので、お年を召した方やお子さまにもご利用いただけるかと思う。中央図書館では多くの資料を所蔵しており、さまざまなサービスを行っている。地区図書館は地域に根差したサービスを提供しながらみなさまにご利用いただいている。しかし、さらなる図書館サービスの向上を目指しており、また利用者からのご要望も増えてきている。そちらに応えるべく、職員間でも検討をしているが、やはり市民の方の目線でいろいろなご意見を聞きたいと考え、本協議会を設置している。本協議会は平成23年度から設置し、今年度から第2期として今回も委員のみなさまにご協議いただきたいと思っている。主としては、府中市立図書館サービス検討協議会要綱の第2条にあるように、利用者の拡大、利用者へのサービス提供のあり方に関する事、それ以外にもサービスの向上につながる事項などについてご意見をいただきたい。また、こちらからもご検討いただきたい事項を提案させていただきたいと考えている。本協議会は年3回の開催を予定している。他にもアンケートやご意見いただくこともあるかと思われるので、委員のみなさまにご協力いただきたい。

会長 協議会の概要について特に質問などがないようなので、続いて議題2の第6次府中市総合計画について事務局から説明をお願いします。

事務局 今年度より第6次府中市総合計画が始まっており、平成33年度までの計画となっている。この第6次総合計画の中でも、図書館サービスの充実を謳っている。図書館は市内に13館設置しているので、新たに図書館を増設するという計画は現時点ではなく、中身の充実を図ることを考えている。図書館は多くの方にご利用いただいております。中央図書館は開館から6年経ったが、開館当初は入館者数が1年経たずに100万人を超え、利用者数も増えていた。しかし、東日本大震災以降は入館者数、利用者数ともに少しずつ減少している。この減少は計画停電の影響かと考えていたが、それ以降も減少が続いている。利

用者の方もある程度利用が落ち着いたとも考えられる。しかし、それでも年間100万人と多くの方に入館いただき、貸出サービスもご利用いただいている。中央図書館開館当時は、開館時間が朝9時から夜10時までと長いため、地区図書館の利用者数が減るのではないかというご意見もあったが、やはり地域に根差した図書館として、近くの図書館を利用したり、受取の窓口として利用したりと、利用者数が減ったということは特に見られない。全体の貸出数減少の原因としては、携帯電話やスマートフォンなどの普及や子どもの読書離れがあるかと思われる。また、以前世論調査を行った際、図書館を利用するかという問いに対し、半数は利用していないと回答していた。その理由は自分で購入するためという方も多かった。図書館としては多くの方にご利用いただくために、辞書類や視聴覚資料といったさまざまな資料を所蔵している。また、来館が難しい方を対象としたサービスもしているので、そういったところをPRすれば入館者数や利用者数が増やせるのではないかと考えている。もちろん、例えばおはなし会を楽しみに来館される方や、レファレンスや調べものが目的で、資料を館内閲覧のみされるもいらっしゃるのでは、貸出数などがすべてとは言えないが、1つの目安として施策指標を設定している。具体的には、市民1人あたりの貸出数を平成23年度の10.2点から平成29年度までに12点とすること、貸出利用者数を平成23年度の87万人から平成29年度までに100万人にすることを、目に見える数値として指標に掲げている。施策の方向性としては、市民のニーズを把握し、特に地域資料や行政資料を充実させ、資料を幅広く収集し、インターネットなどを利用した情報収集・発信をしていくことを考えている。市民のニーズを把握するという意味でも、委員のみなさまにさまざまな問題についてご検討いただき、数値目標を達成するべく充実を図っていきたい。

会長 行政サービスに関してはこのような数値目標や達成年度の目標を掲げるので、それが活動の自由を妨げるということがなきにしもあらずだが、こういった方向性の中で本協議会から何か積極的な提言ができればよいと考えている。特に質問などが無いようなので、議題3の平成25年度府中市立図書館事業概要について事務局より説明をお願いしたい。

事務局 平成25年度府中市立図書館事業概要2ページ目の組織・事務分掌からご覧いただきたい。館長以下39名の職員で実施している。しかし、中央図書館に関しては、PFI事業ということで、業務の一部分を委

託している。市職員の業務としては、利用者登録、レファレンス、児童サービス、ハンディキャップサービス、地域行政サービスなどがあり、資料の充実という点では選書なども市職員が行っている。中央図書館は22名、地区に12名の職員がおり、業務にあたっている。地区図書館に関しては、直営というかたちで市の職員と臨時職員で運営している。係としては、予算などを担当する管理係、主にみなさまに向けたサービスを行うサービス係の2係になっている。3ページには所在地と開設時期などの一覧がある。いずれも複合施設のなかに設置されており、この一覧で見いただくと、白糸台図書館から片町図書館までは文化センターに、宮町図書館は旧中央図書館の場所にあるふるさと府中歴史館に、生涯学習センター図書館は生涯学習センターに、中央図書館はルミエール府中に入っている。規模でいうと、1つひとつが大きいわけではない。4ページに各館の蔵書数などの一覧があるが、地区図書館の蔵書数は5万前後で、規模の小さな押立図書館や四谷図書館では1万冊から3万冊というところもある。中央図書館では昔の新聞などを縮小し専用の読取り機で閲覧するマイクロフィルムや視聴覚資料を所蔵している。新聞や雑誌はそれぞれの館で所蔵している。5ページには図書館の利用状況があり、資料別の貸出数の一覧をご覧いただくと、平成25年度の累計が2,416,203点に対し昨年度は2,460,891点と減少している。特に、視聴覚資料の貸出数減少が著しい。全体の貸出数に対し、減ってきている。視聴覚資料とは、カセット・CD・DVD・ビデオ・録音図書などで、他にもLDを所蔵しているがそれは館内閲覧のみとしている。CDの貸出数だけ見ても、昨年度より2万点近く減少している。視聴覚資料の貸出は昭和62年頃から開始しているので古い資料もそろっている。単に利用が落ち着いたのか、借りたいと思う資料が少ないのか、貸出数が減っている。その他にも、ナクソスミュージックライブラリーといい、こちらで発行したIDとパスワードを使って自宅のパソコンなどから視聴できるサービスもある。しかし、クラシックや民族音楽を中心に扱っているため、図書館の貸出点数増加につながるころまでは補えていない。図書館としては、この貸出利用数をどうにか増やしたいと考えている。同ページにある学級貸出だが、こちらは市内の各学校の学級ごとに行っているもので、1学級につき50冊までを6週間の貸出期間で貸出している。こちらは前年度に比べ増加している。しかし、こちらは先生の交代などによって増減が出てくる。学校との連携、図書館の利用を増やすためにどのようなことができるか、

PRをどのようにしていくのがよいか、みなさまからご意見をいただきたい。6ページでは他市との相互利用状況についてまとめている。八王子・調布・町田・日野・多摩・稲城の京王線沿線6市に加え、国分寺・国立・小金井との相互利用も行っている。沿線7市の図書館で相互利用登録をしている全体の登録者数のうち、府中市民の方の割合は15%前後と、多くはない。また、こちらの表から、府中市民は地理的なこともあり他の市と比べると多くの方が稲城市の図書館で相互利用をしているようだ。稲城市の図書館も最近新しくなり、是政や矢崎町のあたりの方はそちらを多く利用しているのではないかと。7ページのレファレンス窓口受付件数についてだが、レファレンスとは調べものに使える資料のご案内などを指しており、こちらの表にはその受付件数が載っている。件数だけ見ると多いようだが、1日平均件数は13.7件と特別多いわけではない。府中市立図書館では公開していないが、国会図書館のレファレンス協同データベースというサイトでは、質問と回答を公開しており、同じような質問の場合はそちらも参考にしていきたい。同ページのリクエストサービスについてだが、リクエストは図書館ホームページや館内の利用者端末からの受付が多い。府中市の図書館で未所蔵の図書は紙のリクエストカードで受付している。10ページの児童サービスについてだが、定例のおはなし会やブックトークが主なサービスとなっている。現在中央図書館では毎週木曜日と第1土曜日、地区図書館では月一度実施している。定例のおはなし会は3歳以上、ちいさい子のためのおはなし会は1・2歳児と保護者の方を対象にしている。12ページには子どもに関連する講演会や講座、おはなし会の実施結果を掲載している。子ども読書の日に合わせておはなし会や、ボランティアの方やご自宅での読み聞かせをする方に向けた、技術向上のための読み聞かせ講習会も行っている。13ページには学校との連携というところで、職場体験の受入れについて載せている。とても熱心な生徒が多く、貸出・返却などのカウンター業務の他にもさまざまな体験をしていただいている。15ページではハンディキャップサービスについて掲載している。利用状況のところをご覧くださいと、宅配・郵送の利用者がいらっしゃるが、貸出点数は宅配の方が多い。来館が難しい方を対象にしているサービスだが、障害を持った方に限らず、お年を召した方に対しても広く行っている。それによって、さまざまな資料をご利用いただければよいと考えている。所蔵状況については、点字図書や録音図書、通常の図書に比べ文字の大きい大活字本があり、多くの方にご利用いただい

いる。こういった資料は主に中央図書館でのみ所蔵しているが、以前地区図書館で大活字本の特別展示を行い、そういった資料があることをPRできた。今後も展示を検討したいと考えている。サービスとしては、対面朗読や録音図書の作成、布絵本の作成なども行っている。19ページでは主な年間事業を載せている。昨年度市で企画運営した事業としては、「京王線と府中」というレファレンス講座を開催した。講演会は子ども向けに科学遊びと、絵本作家で鳥の巣研究家の鈴木まもるさんの講演会を開催した。20ページはPFI事業者主催の事業で、図書館の裏側をご覧いただく「図書館ガイドツアー」や館内に設置している利用者用の端末の操作方法のご案内をする「本探しのパートナー」、子ども向けに夏休みに開催する「図書館員体験ツアー」、「図書館探検隊」、その他講演会や朗読会も実施した。21ページが市民・登録者1人あたりの比較等ということで、先ほどの第6次府中市総合計画の際に申し上げたとおり、23年度市民1人あたりの年間貸出数は10.2点だったが、平成25年度は9.5点と減っている。人口は増加しているので、利用数が減っていると言える。22ページからは参考資料となっているのでご参照いただきたい。今回は25年度の事業概要のみ配布させていただいたが、前年度、前々年度の事業概要もご要望があればお渡しできる。

会長 府中市立図書館の事業が非常に多岐にわたっているということで、全体を把握することはすぐには難しいかと思うが、これまでの概要説明の中で何か質問があればお願いしたい。

大石委員 他市との協力という点で、府中市は武蔵野市との接点が少ないように感じる。西武線に武蔵境駅があり、連携しやすいのではないかと思うのだが、何かこれまでにそうしなかった理由はあるのか。

事務局 おっしゃるように、西武線で両市は連結しているが、市としての接点はないのがまず1つある。さらに大きな理由としては、武蔵野市立図書館の利用者のうち、市民以外の方の利用が全体の5割を超えているので、武蔵野市としては武蔵野市民の方向けのサービスを充実させたいと考えているということがある。これまでに武蔵野市の方へお話はさせていただきおり、府中以外でも調布市などが同様の要望をされているようだが、現時点では武蔵野市民向けのサービスを展開したいという回答をいただいている。しかし、府中の東側にお住まいの方は中央図書館までは来館しにくいのに加え、地区図書館は開館時間が中央よりは短いので利用しづらいというご意見はある。現在相互協力を行っている範囲でさらにPRをしていくことや、地区図書館の運営につ

いては検討を重ねる必要があると感じている。

大石委員 武蔵野市にできた武蔵野プレイスは有名で、子どもたちが過ごせるスペースを広くとり、グループごとに集まってカードゲームをしたり会話していたり勉強している子たちもいる。地域の中高生を受け入れる場となっている。建物として充実しているし、本の種類も多岐にわたっており、市外の利用者が多いというのも納得ができる。そういった図書館以上の魅力があるからこそ市外の方の利用が多いのではないかと。府中もそうになってほしいと思う。

渡辺委員 武蔵野プレイスはいつも混んでいる。

事務局 吉祥寺図書館もあるので、在学などで登録している利用者も多いのではないかと。しかし、ご提案として承りたい。

野見山委員 市民の年間貸出数を増やしたいということだが、性別や年齢など登録者の利用者層の検証はしているのか。

事務局 年齢のデータはあるが、利用登録時に性別の登録はしていない。毎年秋から冬にかけて、市民会館、レストラン、図書館に関して満足度調査を行って分析はしている。しかし、これは来館者を対象にしたアンケートなので、全体を把握するには不足していることも認識している。来館しない方へどのようにPRしていくべきか検討する必要があると感じている。もっと踏み込んだ調査にするなど、検討していきたい。

渡辺委員 図書館に来られない方への宅配サービスについて。高齢の方だけでなく、今は若年層に時間がない。駅など、通りがかりに返却できたりするとよい。どこか郵送の貸出・返却に踏み切ったところはあるのか。

事務局 コンビニでの貸出・返却という例があったように記憶している。返却まで対応していたのかは不明。埼玉県の所沢市で貸出本の受取りは行っていたように思う。都内では聞いた記憶がない。

渡辺委員 府中が先駆けとして始めてはどうか。

事務局 仕組みとしてはないが、宅配で返却される方もいる。引っ越しや出張が多いなど、返せない事情がある方もいるようだ。年に何度もあるわけではない。各図書館にはブックポストもあり、年末年始など以外は24時間365日返却できるのでそちらを利用していきたい。駅前ブックポストを置いてほしいというご意見もこれまでにある。

高橋委員 貸出した資料の返却がどれくらい遅れているというデータはとっているのか。

事務局 返却が遅れると他の利用者の方への迷惑になりかねないので、予約がついている資料に関してはデータをとって、毎週土日に電話などで返却をお願いしている。他にもハガキやインターネットサービスに登録

している方にはメールで返却をお願いしている。それでも返却していただけない場合は職員が自宅へ伺う訪問回収もしている。

高橋委員 市政情報センターにブックポストを置けないのか。回収が早くなるのではないか。

事務局 そういったご意見はこれまでも多くいただいているが、現状では難しい。理由としては、安全管理や回収をどのようにするかということが挙げられる。現在、市内図書館間での資料配送はPFI事業者に委託しており、1日に2回巡回している。そのルートに駅を入れることができるのかという、時間的な制約もある。当初の契約になかったものを増やすことで予算もかかってくる。また、駅前を再開発していることも関わってくる。

高橋委員 コンビニでの返却などができれば、図書館のPRにもつながる。そういったことが充実しない限り、利用者数を増やすことは難しいと思う。インターネットが普及している現在、もう一步踏み込んでみてほしいという要望を持っている。

会長 レンタルビデオ業者がオンラインによる宅配サービスを先駆けとして行っているが、現在は公立図書館もインターネットで予約できるなど、従来とは制度が変わってきている。資料の検索も図書館外からインターネットを通じてできるので、資料を探しに図書館へやって来る来館者の数は減る。一方、事前に調べてから来館すればいいので、その分利用率は上がるかもしれない。このような変化が公立図書館にとってどのような意味をもつかを考えなければならない。利便性が高くなることは確かによいことだが、制度や予算などの課題がある。予算が減っていく中でサービスの向上が求められているので、こういった方向性で進むべきかを考えていかななくてはならない。そこで、みなさんに今後色々なご意見を出していただければと考えている。他にご意見があればお願いしたい。

茅原委員 押立図書館について。押立図書館は面積が小さい。現在改修中ということだが、改修後はどうなるのか。

事務局 押立は現在文化センター全体の改修工事を行っており、来年の2月中に開館予定となっている。文化センター自体規模が小さかったが、増築し、現在の48平米から127平米ほどになる予定となっている。資料は現在の1万3千冊から約1.4倍の1万8千冊程度に増える。資料数がそれほど増えないのは、書架の間隔を広くとっているため、車椅子やベビーカーの方も通りやすいようになっている。現在は開館に向けて資料を集めている。

- 会長 他になければ、続いて議題4の第1期の報告書について事務局から説明していただきたい。
- 事務局 第1期の報告書は、前年度の館長の所感、目次、運営報告の一覧、議事録、委員名簿委員、委員の方からいただいたメッセージ、昨年度の会長を務めていただいた栗田会長からいただいた一文という構成になっている。こちらは教育委員会へ報告後、ホームページへ掲載、図書館での貸出資料にする予定となっている。今回こちらを配布したのは、2期でどういったことを協議していくのか、または図書館への要望などの際に参考にさせていただくためなので、ご覧いただきたい。
- 会長 資料の分量が多いので今回は持ち帰りとし、次回以降の議論に活かしていただきたい。今期も議事録を作成する予定となっている。続いて、その他ということで、何かあればお願いしたい。
- 野見山委員 マイナンバーが2016年1月から導入されることについて。一部の図書館ではマイナンバーと図書館のカードを連結させようというところもあるようだ。利点と問題点はあるかと思うが、府中市ではどのような考えなのか。
- 事務局 マイナンバーをどう活用していくか、市として検討している段階なので、現時点で図書館が導入するかは申し訳ないがお答えしかねる。反対に、今委員のみなさまからご意見をいただき、今後の参考にさせていただきたい。登録しなくても図書館を利用できる利点もあるが、まだまだ危惧されている点もあるかと思う。個人情報の取り扱いや、またシステムの問題なども含め考えていきたい。
- 小島委員 子どもの読書指導に熱心な教師から出た要望をここで5点挙げたい。学校図書館部会で出た要望で、各学校の各学年の先生を対象におすすめの本の紹介やブックトークをしてもらえないかというのが1つ目、市内全学校の3年生を対象に、近隣の図書館の方による利用案内をしてもらいたいというのが2つ目、早い段階で図書館部の部員に紹介したいので新刊本を早く入れてほしいというのが3つ目、新刊本の団体貸出をしてほしいというのが4つ目、最後に団体貸出の申込み用紙に資料の番号を書くが、それを省略できないかという以上5点の要望が挙がっている。
- 事務局 1つ目、2つ目のご要望については図書館としても実施できればと考えている。学校図書館部会では以前、年に一度七夕の時期の部会で図書館との交流会を行っていたこともあった。
- 小島委員 7月の部会では全小学校向けにおすすめ本のリストを作っている。
- 事務局 先生方の異動や業務が多岐にわたってきていることもあり、だんだん

- と回数は減り、交流会はなくなった。しかし、必要性は感じている。
- 小島委員 月に一度のペースで開いているので、年に一度でも図書館の方に参加してもらえる可能性はあるということか。
- 事務局 以前はこちらから近いということもあり一小へお邪魔していた。また、図書館の利用案内は3年生ではなく1年生を対象に春先にお渡ししていた。
- 小島委員 1年生はまだ1人で図書館へ行くのが難しい。3年生になれば1人で行動できる範囲も広がり、近くの図書館へ1で行ける。
- 事務局 それらに関しては今後検討していきたい。新刊本に関してはなかなか難しいところがある。貸出しができるようになるまでの過程として、資料の装備やデータの作成などがあるので、日数がかかってしまう。
- 会長 発売から貸出開始までどのくらいタイムラグがあるのか。
- 事務局 発注してから最低2週間はかかる。選定も発売後すぐにするわけではないのでそこでもタイムラグが出てくる。
- 渡辺委員 発売していればリクエスト自体は受け付けてもらえる。
- 事務局 選定方法はいくつかあり、見計らいといい、業者が図書館へ持ってくる本の現物を見て選定する方法、PFI事業者が発行する全点案内を参考に週に一度開く選定会議で選定する方法などがある。この方法だと発注と納品が週に1回となるのでタイムラグが起こる。特に児童書の選定は中身を見て慎重に行っているのもより時間がかかることもある。
- 大石委員 おすすめの本の紹介について。先生方は忙しく1冊1冊中身を確認する時間がない。一方図書館は指導要領がどうなっているかという発想がないので、普段学校の仕事をしていて噛んでいないと感じているところだ。毎年決まって行っている内容にも関わらずその資料が図書館にないというのは風通しが悪いという印象だ。府中市では理科支援員が各学校におり、研修も年に3回行っているが、そのうちの1回で図書館の資料を充実させるような、また学習指導要領に合った図書のご案内などをしてもらい、それを活用できればよいと思っている。
- 事務局 図書支援をされている方、司書の先生の研修で案内をさせていただくこともあるが、回数が限られている中ではなかなか難しいようだ。今年度の第1回目の先生方の研修でも10分程だが学級貸出のご案内を行った。今年度の研修予定に組み込むのは難しいようで、来年度以降の研修に入れることができればと思っている。
- 小島委員 各学校から1名選出した図書館担当教員の研修内容は指導主事が研修内容を決めているが、必ずしも中央図書館との連携がとれていない。

- 大石委員 常勤の先生は本当に時間がないので、じっくり本を選ぶゆとりはないようだ。理科支援員は比較的時間の余裕があり、また図書資料への関心を持っている方もいらっしゃる。
- 事務局 私どもも教育部に働きかけていきたい。
- 会長 他に何かご意見などがあればお願いしたい。
- 北谷委員 新刊本やリクエストの多い本について。私は本を借りるよりも買う派なので、本が増えていく。例えば、新刊本や特定の本に限定したうえで、小学校のご父兄の方たちに読まなくなった本を寄贈できれば、市としてはお金をかけずに蔵書数を増やすことができ、回転数を上げることにも貢献できるのではないかと。また、そうして集まりすぎた場合の保管などの問題も出てくると思う。すでに除籍の資料のリサイクルなども行っているようなので、新刊本や人気の本はリクエストが多いときだけの一時的な所蔵ということで、その後は市民に戻すことはできないか。
- 事務局 このことに関しては両方のご意見がある。多いものでは数百件のリクエストがついていてお待たせしているものもある。1館で1冊でも市内全館で買うと13冊になり、さらに買い足すこともある。新刊本を大量に買うのも著作権者や出版社との関係もあり、他の資料の購入費が減ることも資料を広く集めなくてはいけない公共図書館としてどうなのかという話になる。リクエストが多い時だけ大量に購入しても、利用が落ち着くと寝かした状態になってしまう。一方で、もっと買って早く回してほしいというご意見もある。以前、予約が500件以上あり回らない資料についてホームページで寄贈をお願いし、数冊集まったことがあった。そういった資料に限らず寄贈は受けており、蔵書として受け入れなかった資料はリサイクルへ回すということもしている。
- 渡辺委員 現在は出版が青息吐息ということに加え、情報が無料で手に入る時代になったこともあり紙媒体の本の本離れが進んでいる。何百人ものリクエストがついている資料を待っている人の読書意欲は高い。出版社も需要を探っている状態だと思うので、どこかが口火を切って出版社からの寄贈を依頼してはどうか。そこまで人気のある資料は図書館に何冊増えようと購入人数にさほど影響はないと思う。出版社へ働きかければ、図書館に提供することで出版側にもメリットがあるのではないかと。
- 事務局 専門書は公立図書館や大学図書館のようなところで購入されるから何とかなっているというところもあるかと思う。電子書籍に関しても、

何アクセス分を購入しなくてはならないということもあるかと思うが、電子書籍は返却遅れがないので回転がよくなる。紙媒体の資料の出版状況を踏まえ、電子書籍の導入など今後検討していかなければならないと考えている。

会長

電子書籍の話は前期でもたびたび話題にあがったが、サービスが始まったばかりなので、導入について独自に検討しなくてはならないという状況だ。紙媒体の資料は返却が遅れるという問題があるが、オンラインサービスではそういった心配はない。しかし、一方で、オンラインで読めるようになると、必ず著作権の問題が出てきて、著作権管理の問題が利便性の妨げになることもある。著者にとって多くの人に利用されることが利益となるか、難しいところである。図書館に入った電子書籍が、例えば500人に利用されるのであれば、500倍の値段で購入してもらおうという理屈が生まれてくることになる。電子書籍は利便性が高いが、このような理由で価格が上がってくる可能性もあり、図書館の財政を逼迫することになるかもしれない。紙媒体の場合は何人利用しようと価格が高騰することはなかったが、返却遅れや管理などの問題をクリアしなければならない。寄贈に関しては、図書館が要望するものから外れた書籍の寄贈が多いと、受入れは難しくなる。電子書籍の問題は、先ほど出た新刊書のタイムリーな受入れの問題と併せて考えていく必要がある。時間が来たので閉会とさせていただきます。

7 館内案内